

2007年4月から2013年3月までに、発症から7日間以内の脳梗塞および一過性脳虚血発作で当院に入院された患者さんへのお知らせ
「脳血管障害患者の臨床的特徴と予後に関する後ろ向き観察研究」に関する情報開示

川崎医科大学附属病院脳卒中科
佐治 直樹

脳梗塞は脳卒中のおよそ7割を占める重要な病気です。また、脳梗塞になる前段階である一過性脳虚血発作も危険な状態です。これらの病気は、脳出血やくも膜下出血と同様に、運動麻痺や言語障害などの後遺症をきたし、大きな社会的問題となっています。生活習慣病を含めた様々な危険因子が、脳血管障害を発症した後の生活や予後に関係すると考えられていますが、これらの関連はまだよく分かっていません。この研究では、脳血管障害をおこした患者さんに、いろいろな危険因子が与える影響や予後について調べ、これらの関連を明らかにいたします。

この研究は、2007年4月から2013年3月までに発症から7日以内に入院された、脳梗塞および一過性脳虚血発作と診断された患者さんを対象としております。得られた診療情報(血液検査、CTやMRIなどの画像所見、脳梗塞の程度や患者さんの状態)を患者さんの経過や予後と比較して関連を調査します。今回、この研究を行なうことにつきまして患者さんのご理解とご協力を賜りたく存じます。またこの研究で得られた内容を学会や科学雑誌で公表することにつきましてもご了承いただきたく存じます。患者さんの情報については個人名や個人を特定できるデータは伏せており、当院の個人情報保護規定に従って厳密に管理し、第三者が閲覧することはありません。また、この研究で患者さんは不利益を被ることはないと考えております。なお本研究は当院倫理委員会の承認を得ております。利益相反については、当院利益相反委員会に自己申告書を提出し承認を得ております。この研究に対して、ご質問がある方は、下記担当者までご連絡ください。

担当:川崎医科大学脳卒中医学教室 特任講師 佐治 直樹
岡山県倉敷市松島577 TEL:086-462-1111 FAX:086-464-1128